

令和 2 年度

第 2 回 豊田市上下水道事業審議会

(概要版)

令和 2 年 7 月 1 4 日

令和2年度 第2回豊田市上下水道事業審議会 会議録（概要版）

【日時】 令和2年7月14日（火） 午前10時00分～11時20分

【場所】 豊田市役所 南51会議室

- 【次第】
- 1 会長あいさつ
 - 2 議事
 - (1) 適正な下水道使用料のあり方について
 - I 下水道使用料の現状
 - II 他市との比較
 - III 現経営計画の概要と評価
 - IV 次期経営計画（案）の概要
 - 3 その他連絡事項等
 - 4 事業管理者あいさつ

【出席者】 <委員>

竹内 信仁（名古屋大学名誉教授）	※会長
中山 恵子（中京大学経済学部教授）	※副会長
神頭 広好（愛知大学経営学部教授）	
松本 嘉孝（豊田工業高等専門学校准教授）	
藤嶋 伸一郎（豊田商工会議所：豊田信用金庫 副理事長）	
近藤 恭弘（豊田商工会議所第一工業部会部会長）	
杉本 敦子（豊田商工会議所女性会会長）	
吉賀 憲夫（豊田市区長会理事）	
伴 健太郎（豊田市小中学校長会）	
鈴木 誠美（豊田森林組合代表理事組合長）	
石橋 博文（豊田加茂薬剤師会監事）	
野々山 輝美（あいち豊田農業協同組合女性部長）	
河合 久江（足助地域会議委員）	
鈴木 弘美（下山地域会議委員）	
古橋 久三（稲武地域会議副会長）	
城金 茂樹（公募委員）	
青木 厚子（公募委員）	

<事務局>

前田 雄治（豊田市事業管理者）	
杉本 尚久（上下水道局局長）	

成瀬 光明（上下水道局副局長）
下川 涼太郎（上下水道局総務課長）
澤田 亜紀（上下水道局経営管理課長）
岡田 政彦（上下水道局企画課長）
岡部 年朗（上下水道局料金課長）
堀江 荘平（上下水道局下水道施設課長）
竹村 浩一（上下水道局下水道建設課長）
畑田 吉彦（上下水道局経営管理課副課長）
八木 衣絵（上下水道局経営管理課担当長）
岡野 久（上下水道局経営管理課主査）
鶴生 浩輔（上下水道局経営管理課主査）

【欠席者】 なし

【傍聴者】 なし

【議事等の摘要】

1 会長あいさつ

- ・今回は次第にありますように、適正な下水道使用料のあり方について審議をいたします。委員の皆さんには、前回、企業会計の仕組みについて説明がありましたが、公営企業会計が初めての方は非常に難しいと思われた方も多かったと思います。
- ・前回の内容を思い出していただきながら、下水道使用料の現状や経営計画の概要、評価、そして次期経営計画について説明いただき審議をいただくようになっていますので、よろしくお願いします。

2 議事

(1) 適正な下水道使用料のあり方について

I 下水道使用料の現状

○経営管理課八木担当長

- ・資料に基づいて説明

<質疑応答>

○城金委員

- ・下水道使用量に関し、4人家族を想定し試算しているが、豊田市のホームページを見ると1世帯当たりの平均世帯員は2.3人である。4人の想定に疑問があったが使用水量のグラフを見ると確かに21から40m³のところがボリュームゾーンとなっている。
- ・国の全体の傾向の中でも単独世帯が増えており、料金設定の検討のプロセスで単独世帯の増加がどう反映されているのか知りたい。使用量の減は単に節水機器の増加ばかりではないと思う。下水道が整備されている拳母地区の1世帯あたりの人口も2.1人強だと思うので、そのあたりのことはどう試算に反映されているか教えていただきたい。

○澤田課長

- ・確かに、豊田市の統計上は単身世帯が非常に増えている。4人というのは、皆に解りやすいよう両親と子供2人というモデルケースで話をさせていただいた。
- ・今後の下水道使用料の計算をするときは、人口や世帯数の見込み、下水道の接続戸数などの傾向もしっかり分析する必要があると思っている。

○城金委員

- ・豊田市の1世帯あたりの人口は2.3人なので、4人は多いかと思ったが、実際の下水道使用量を見ると、2.3人では計算できないという思いはある。
- ・汚水の量の単価表で0から10m³までのところは10円という非常に安い料金で設定されている。それから11から20m³は100円となっており、0から10m³の世帯数のボリュームゾーンの使用料金が安いという印象を持ったので、この質問をしたいと思った。今後の下水道使用料の見直しの中で、そのあたりも検討していただけたらと思う。

○八木担当長

- ・汚水量単価は0から10m³までが10円ということでかなり安いですが、スライド10を見ると、基本料金が占める割合が高いので、1m³で割り返してみると、11から20m³の方が1m³あたりの単価は安くなるということはある。

○松本委員

- ・スライド番号の9番若しくは10番に記載があるが301m³以上使用している大口使用者の使用料収入が全体に占める割合が高く25%近い割合を占めていると思う。
- ・今後も継続的、恒常的に大口使用者からの下水道使用料の徴収ができるかどうか大きなポイントとなってくると考えるが、上下水道局ではどのように考えているか。
- ・また、私の認識では大口の使用者が病院や寮などと認識しているが間違いないか。

○八木担当長

- ・豊田市の大口使用者では、社員寮や病院などで間違いない。
- ・大口使用者の使用料がこのまま維持できるかは、スライド6で説明したが、28年度から30年度は、年に6千万円使用料が伸びていたが、令和元年度は2千万円の伸びで、大口使用者の使用水量が減少したことが原因に挙げられると話させていた。
- ・大口使用者も上下水道料金の負担が大きいのので、節水の努力などをしていると思う。令和元年度になって大口使用者の使用水量の減少という現象が出てきたので、どういう状況で、こういう現状にあるかを今後しっかりと分析しなければならないと思っている。

○松本委員

- ・直近に起こった現象なので、計画に反映できないことは理解した。

II 他市との比較

○経営管理課八木担当長

- ・資料に基づいて説明

<質疑応答>

特になし

III 現経営計画の概要と評価

○経営管理課八木担当長

- ・資料に基づいて説明

<質疑応答>

○松本委員

- ・スライドの23番目の部分で、支払利息が常にマイナスになっているが、一般的な感覚では、利息なので予測できると思うが何故か。
- ・説明では低金利だからという話だったと思うが、予定した利息がどんどん減っていくと考えると良いか。

○八木担当長

- ・当初現経営計画を策定したときは、借入利率を1パーセントで想定していた。
- ・実際の借入は令和2年3月に借り入れたものが0.3%で、それ以前の31年3月に借り入れたものが0.5%ということで、想定を下回る利率であった。
- ・新規の借入額も、実施した事業が、想定よりも安い金額で事業を終えられ、借金の借入が少なく済んだところもあり利息が減少した。

○松本委員

- ・最後にも話が出てくるかもしれないが、事業費が減ったのはアセットマネジメントなどの努力によって、費用が減っていると考えて良いか。

○八木担当長

- ・最後のところでも説明するが、工事の発注方式の見直しや雨水ポンプ場の改修工事などで予定していた事業の再検証を行い、本当に必要な事業のみにしたことで事業費が減少した。

IV 次期経営計画（案）の概要

○経営管理課八木担当長

- ・資料に基づいて説明

<質疑応答>

○城金委員

- ・スライド32の持続可能な下水道事業に向けた取組の2設計施工一括発注、公民連携の点について伺うが、この設計と施工が一緒になっていくと価格の妥当性を誰が検証しえるのか。企業というのはやはり経済原則で動くので、果たしてその価格が妥当かどうかを公、いわゆる官の立場でどうやって検証するのか。

○竹村課長

- ・価格の妥当性という話だと思うが、まず発注時に工事の部分と設計の部分それぞれ標準歩掛と労務費等があり、通常であれば先に設計をして、設計後その設計内容に基づいて工事を発注する。
- ・今回のケースは基本設計というものをやった上で、それに基づく工事を発注する。それぞれ公共単価を用いて発注している。
- ・この公民一体でこういったものを求めているかと言うと、大きく一括で発注することで、まず経費の削減が図られる。
- ・もう一つは、一体で発注することで、例えば、面整備に4年掛かるところを、工期が短縮され3年で工事完了するといった工期短縮のメリットがある。

○城金委員

- ・今ここで解りましたという状態にはならない。もう少し勉強していきたいと思う。

○岡田課長

- ・工事の発注には、大きく分けて性能発注と仕様書発注の2つがある。これができれば良いという形と、こういうふうに作りなさいという形に分かれる。
- ・設計施工一括発注については、仕様書発注で、発注者がどこにどういう管を入れなさいという形で当初設計の中に全て入れている。

- ・ただし、設計施工一括発注については、先ほど、竹村が説明したとおり詳しい設計まではやっていない。工事に入るときに、設計会社と工事会社が打ち合わせをし、一番効率のいい方法を発注者である豊田市に提案して、承認が得られたら現場に入っているというやり方である。
- ・下水道管は、一般的に土の中に埋まっている工事なので、いくら前段階で調査をしても何があるか分からないという工事の性質を持っている。そういった現場の課題等を早く解決するために、今までは工事現場で何かあったら持ち帰って、設計会社と相談していたが、そこが省け直接設計会社と話すことで工期の短縮が図れるとか、先ほどのスケールメリットがあるとか、公共工事の特有の年度で区切るところが年度をまたいで工事ができるといったメリットがある。

○城金委員

- ・大変わかりやすい説明であったが、解りましたとはこの段階では言えない。

○神頭委員

- ・普通、経営学的には、公共料金の設定は、普通は市場に任せるとき、水が欲しいなと、あるいはこのくらいの料金なら使ってもいいかなというところで決まるのが、市場の料金とその利用者の人数だと思うが、利用者の数を変えずに、サービスするとして、赤字になったら補助金で賄うという、公共料金なので固定費用である資産維持費用や人件費とか動力費、修繕費といった可変費用を補って、料金を設定する考え方があるのだと思う。
- ・今日の説明の最後は、内部留保資金とか資本費算入率という話だったが、ここではあまり時系列的なデータがなかった。
- ・例えば営業費と給水人口の少し過去からのデータがあると、需要の価格弾力性というか、うまくいった時期の料金が、今の給水人口では、どのくらいの料金がその価値に当てはまるかということも見られるので、もう少し時系列的なものも踏まえて貰いたい。

○澤田課長

- ・今言われたような時系列的な資料も、できれば次回用意したいと思う。

3 その他連絡事項等

○経営管理課畑田副課長

- ・今年度の審議会開催予定について説明

4 事業管理者あいさつ

- ・本日は、御審議ありがとうございました。先回につき、今回も基礎的な情報の御提供ということになりましたが、積み上げ式の協議を願っておりますので、今日の資料、それから御議論を踏まえて、次につなげてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。
- ・ところで、今回の長雨による災害によりまして、市内でも若干の被害が出ています。テレビでも流れましたが愛知環状鉄道の法面が崩れて、1日半ぐらいの間、鉄道が

不通になっていたということがございましたし、人家にも、土砂の流れ込みなどがございました。

- ・それから山村部を中心に避難をしていただいております、31世帯56人の方が避難なさっておられたということがございました。まだまだ気を許せない状況ではございます。
- ・九州などの大変な被害を思うと、いつ何時、起こるかどうかわからないというところですね。あの映像を見ると、こちらもああいう災害が起こるかどうかを考えながら進めなければいけないと思います。
- ・私どもの下水道の部分では雨水排水を担っています。今回も、中部ポンプ場が稼働しておりますし、この中心市街地の雨水については、梅坪中部のポンプ場、それから調整池などで対応をしているところですが、引き続き、災害については、しっかりと対応してまいりたいと思っております。
- ・今日は、また聞く一方のことになってしまいましたけれども、ありがとうございました。次回またよろしく願いいたします。

午前11時20分終了